



社会医療法人 鴻仁会

Relation

— あなたと共に —



新年号

2022.1.20発行

Vol.88



新年のご挨拶

社会医療法人鴻仁会 岡山中央病院 院長 金重 総一郎

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2021年も、2020年から急拡大した新型コロナに振り回された一年でしたが、新型コロナもワクチン接種の広がりなどから落ち着きを見せ始め、新たなポストコロナへの時代の変遷を感じ始めております。

さて、当院は2020年11月に新棟東館を新設し、岡山中央奉還町病院が、伊島北町の本院と合併しました。新しくなった機能といたしましては、産科バースセンター、回復期リハビリ病棟、透析センター、緩和ケア病棟です。いずれも好評で、皆様に満足していただける機能となっております。

また、新たな診療領域としまして、整形外科では脊椎疾患、骨折に加え、肩肘スポーツ外来が新設されました。野球などの肩肘トラブル、テニス肘等でお悩みの患者さんを数多く受け入れております。循環器内科は

不整脈のスペシャリスト二人が在籍し、心房細動などに対する根治的アブレーションなどに積極的に取り組んでおります。今までは抗凝固薬、抗不整脈薬の内服で治療していた患者さんには、内服が不要となることから、とても喜んでいただいております。そして、救急車を含めた救急疾患の受け入れをスムーズにすることで、さらに積極的に受け入れを行ってまいります。

2022年は新型コロナを克服した年になるでしょう。コロナのおかげでデジタルトランスフォーメーション(DX)の流れは急速に広がりました。この流れはどこに落ち着くのか。例えばZoom会議などは当たり前になりました。医療はどうでしょうか。遠隔診療は広まったとは言えません。処方箋や保険証確認の煩わしさが一因でしょうか。個人的には、マイナンバーカードがもっと広がりを見れば、患者さんの手間はかなり省けると思います。私が以前訪れた、デジタル先進国のデンマークやエストニアでは、マイナンバーカードが当たり前で、患者さんにとって便利な物でした。

今後、医療にもDXは必須だと考えています。その際には、患者さんにとって便利でメリットがあるかという目線が大切になってきます。これは「あなたと共に」という病院理念そのものであり、これからも大切にしていきたいと思います。

本年も、岡山中央病院をよろしくお願いいたします。



CONTENTS

- page 1 新年のご挨拶
- page 2 肩・肘・スポーツ専門外来のご案内
- page 3 「切迫性尿失禁」の新しい治療法が保険適用になりました!
- page 4 新棟オープンから1年を振り返って…
- page 5 新しいCT装置のご紹介
- page 6 乳がん検診は女性スタッフがサポートします!



肩・肘・スポーツ専門外来のご案内

スポーツによる関節障害や加齢に伴う肩、肘等の痛み全般を専門的に治療します。専門医の診察と高性能MRIによる確実な診断、低侵襲な関節鏡手術や自己再生を促進するPFC-FD療法[※]、リハビリテーションなど総合的な治療が可能です。

※PFC-FD療法とは

当院では人が生まれながらに持っている、自然治癒力を利用した再生医療であるPRP療法(多血小板血漿療法)を進化させたPFC-FD療法を行っています。

PFC-FDには組織再生を促進する多数の成長因子がPRP療法の2倍以上含まれ、損傷部分の早期治癒や痛みの緩和など高い効果が期待できます。PFC-FDは患者さん自身の血液から作られたものなので、アレルギー反応などのリスクも少なく、また関節腔内注射のため外来で施行できます。慢性的な痛みに悩まれている方、色々な治療を試したが効果が得られなかった方や、手術に抵抗がある方にとって、新たな治療の選択肢の一つになっています。



主な疾患

■肩腱板断裂

肩の痛みは肩関節周囲炎と診断され長く痛みが続いてしまっていることが多いのですが、その中には腱板断裂などによるものが多く含まれています。その場合、MRIなどで精査をして治療方針を決めていく必要があります。痛みや可動域制限がひどい場合は関節鏡下腱板縫合術を行います。又、以前は手術困難であった末期の変形性肩関節症にも治療が可能となってきています。



従来型人工肩関節



リバース型人工肩関節

■投球障害肩

野球やバレーボール、テニスなどオーバーヘッド動作で疼痛を生じるスポーツ障害です。治療はリハビリテーションが中心で、肩肘に負担のかからない全身を使ったフォームを習得できるようコンディショニング作りから始めます。関節唇損傷など肩関節に損傷部位がある場合は関節鏡視下手術が必要になる場合もあります。

■野球肘

投球時に肘内側、外側、後方などに痛みが出ます。離断性骨軟骨炎、肘頭骨端線離開、肘頭疲労骨折、側副靭帯損傷などの病態があります。治療はリハビリテーションが中心ですが、将来を見越した治療法の選択、場合によっては手術が必要になることもあります。

医師紹介

整形外科

島村 好信

SHIMAMURA YOSHINOBU

専門：上肢スポーツ、肩、肘

資格：日本整形外科学会専門医

日本スポーツ協会認定スポーツ医

外来診療日

月曜 午後

火曜 午後

金曜 午前



「切迫性尿失禁」の新しい治療法が 保険適用になりました!



泌尿器科 医師
大岩 裕子

尿失禁とは自分の意思とは関係なく尿が漏れてしまうことで、一般的には「尿漏れ」と言われています。多くの場合、膀胱排尿筋や骨盤底筋の衰え、加齢による排尿機能の衰えが背景にあり、中高年以降、男性、女性ともに悩まされる症状です。人生100年時代の今、より生活の質の高い老後を過ごすために排尿機能は忘れてはならない機能であり、「尿失禁」はそのことに気づかせてくれる身体からのサインです。

尿失禁には大きく、①新しい治療法が保険適用になった切迫性尿失禁 ②手術で治る可能性のある腹圧性尿失禁 ③緊急性の高い溢流整尿失禁の3つのタイプに分けられます。今回は、「切迫性尿失禁」についてご紹介させていただきます。



【切迫性尿失禁】

「切迫性尿失禁」とは「尿意を催すとトイレまで我慢できずに漏れてしまう」症状です。急な尿意が不安で、食事会や旅行に行くことが億劫になったり、外出時には常にトイレを確認するなど、日常生活に影響が出てお困りではありませんか?

この切迫性尿失禁は、薬を飲み続けて症状を緩和する治療が中心ですが、薬で症状が改善しない方や、便秘や口渇などの副作用で飲み続けられない方もおられます。

そのような中で、新しい治療方法「ボツリヌス毒素膀胱壁注入療法」が開発され、日本でも2020年に保険適用となりました。ボツリヌス毒素と聞けば、危険なものと感じられるかもしれませんが、世界で安全と効果が確認

され、色々な疾患に使用されています。

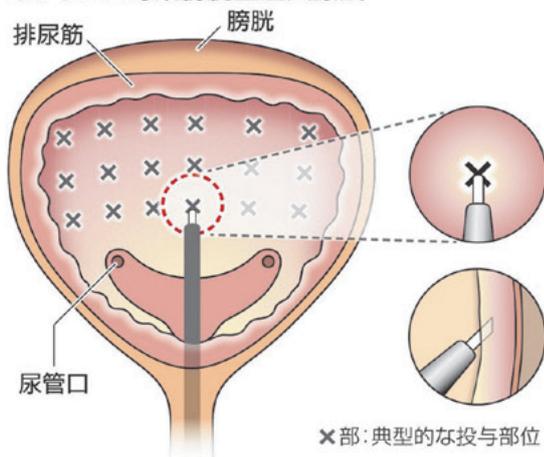
当院では、日帰りで治療を行っております。外来で膀胱局所麻酔を行った後、手術室で膀胱の筋肉に細い針でボツリヌス毒素を注入します。手術時間は20分程度で、術後1~2時間ほど様子を見た後にご帰宅いただけます。効果は通常2~3日で現れ、4~8ヶ月間持続します。効果が弱まり再発した場合は、再投与を検討します。合併症としては、尿が出なくなる尿閉(5%)、尿路感染症(7%)などがあり、慎重に適応を評価し、治療を行っております。



咳やくしゃみ、スポーツなどでお腹に圧がかかった時に尿が漏れてしまう女性に多い尿漏れ「腹圧性尿失禁」でお悩みの方の中には、切迫性尿失禁を合併されている方も多くいます。腹圧性尿失禁は手術療法を行っておりますので、お気軽にご相談ください。

「尿漏れ」が気になる方は、
ぜひ、泌尿器科外来をご受診ください!

ボツリヌス毒素膀胱壁注入療法



新棟オープンから1年を振り返って…

【透析センター】

思い返すと一年前、多くの期待と不安を持って岡山中央奉還町病院から移転してきました。移転に伴う環境や運用面の変化に翻弄され、試行錯誤しながらの毎日でしたが、プライバシーに配慮した全床半個室・個室の透析環境と空調システム、管理栄養士が考案する透析食など、患者さんに大変喜んでいただけたことが私たちスタッフの大きな励みになりました。新たな取り組みとして、患者さんがよりお元気に透析に通っていただけるよう外来リハビリを開始しています。これからも患者さん一人ひとりに寄り添い、より質の高い透析治療を行っていくことで、沢山の感謝をお返し、5年後、10年後に「ここで透析ができて良かった」と思っていただけよう努めていきます。



【回復期リハビリテーションセンター】

私たち回復期リハビリテーションセンターでは「入院生活そのものがリハビリ」という考え方を大切に患者さんに関わらせて頂いています。移転により実現したリハビリ専用の環境を最大限に活かし、リハビリ室での最新機器を活用した機能訓練と病棟生活での動作訓練を組み合わせ、早期の回復と自宅退院を目指しています。特に病棟の取り組みでは、療法士、看護師、介護士が患者さんに合わせた関わりやイベントの実施など、工夫を重ねながら患者さんと共に成長させて頂いた一年でした。来年度はさらにスタッフを増員し、より充実したリハビリ提供体制をつくることで、病気になってから家に帰るまで安心してご利用頂けるリハビリテーションを目指していきます。コンセプトである「患者さんがこれから先も笑顔でいられるように」という思いを持って、チーム一丸となって精進して参ります。





【産婦人科バースセンター】

バースセンターが開院した昨年11月はまさにコロナウイルス感染症流行真っ只中でした。新しい家族の誕生の瞬間にご家族の立ち会いや面会を制限させていただくことは大変心苦しい思いでしたが、状況を受け入れ、当院でお産をしてくださったお母さん方、ここで元気に生まれてきてくれた赤ちゃんの存在に支えられながら過ごしたかけがえのない1年だったと感謝しております。

バースセンターは「お母さんと赤ちゃんに優しい医療や快適なサービスを提供したい」というスタッフの長年の理想や想いを元に創りました。面会が制限される中でも、お母さん

たちにはほっとひと息つける空間で、四季折々の食材やイベントに合わせた美味しいお食事やスイーツを楽しんでいただき、夜は快適な眠りが得られる寝具で休んでいただくなど心身ともに安らげる入院生活を工夫しています。

これからも一歩ずつではありますが、「より優しい医療を より快適な環境で」をコンセプトに、患者さんとご家族に親しまれるバースセンターに成長できるよう、「より＝more」をさらに追及していきます。



新しいCT装置のご紹介

この度、約15年使用したCT装置を更新し、マルチスライスCTであるキヤノンメディカル社製(旧東芝メディカル) Aquilion Prime SP / i Editionを導入致しました。

この装置の特徴は、人工知能(AI)を利用した画像再構成を全身に使用することが可能であるため、従来よりも大幅に被ばく線量を低減しつつ高品質な画像を提供することができます。これらの技術を使用し、腎機能低下患者

さんに対して造影剤量を減量しての造影CT検査や、低線量での肺がんCT検診を行うことができるようになりました。

また、寝台の最低高さは約42cmと低くなり、幅は78cmと広くなりました。それにより身長の高い方や腕をあげにくい方でも、安全に安心して検査を行いやすくなりました。

「温かく、優しいCT検査」をコンセプトに、本装置の導入に至りました。このコンセプトを元に検査室の内装にもこだわり、更衣室も快適にお待ち頂ける様に設計しました。患者さんの不安を少しでも軽減し寄り添えるように日々検査を行っていきます。



INFORMATION

TOPICS

乳がん検診は女性スタッフがサポートします！



2021年5月、セントラル・クリニック伊島に新しくキヤノンメディカル製デジタルマンモシステムを導入しました。日本人の体形に合わせたコンパクトな設計、被ばく線量の低減など、より患者さんに優しい検査を提供できるようになりました。

乳がんは女性が生涯で罹患する癌のなかで11人に1人と最も多く、罹患率は30代後半から急増しています。働きざかり・子育て世代の比較的若い世代から罹患率が高く、30～64歳の世代では女性の癌による死亡数で第1位です。しかし早期で発見し治療を行えば、長期生存が高い確率で期待できます。大切なのは早期発見と乳がんのタイプに合った治療法を選択することです。

乳がんはマンモグラフィや超音波検査、MRI、針生検などの精密検査を組み合わせて診断を行います。また手術や化学療法、ホルモン療法、放射線治療など岡山中央病院と連携し診断から治療まで速やかに対応しています。手術は通常の乳房手術(乳腺部分切除、全摘、腫瘍摘出)に加え、形成外科医による乳房再建術も行っています。

マンモグラフィ、乳房超音波検査、MRI検査、乳腺外来はすべて女性スタッフ・医師で行い、検診から専門外来まで女性の健康をトータルでサポートしています。



放射線スタッフ



医師・外来スタッフ



検査スタッフ

無痛MRI乳がん検診

また、MRIを用いた乳がん検診も行っております。

マンモグラフィ検査と比較し、高濃度乳腺でも高精度な診断が可能です。若い年齢から罹りやすい癌だからこそ、より多くの女性により少ないストレスで受けてほしいという思いから生まれた検査方法です。詳しくはこちらから。▶



痛くない 見られない
すぐおわる



<http://www.kohjin.ne.jp/>
<https://www.kohjin.ne.jp/okayama-gan/>
(がんセンター専用ページ)

社会医療法人 鴻仁会
岡山中央病院
地域連携室
セントラル・クリニック伊島

〒700-0017 岡山市北区伊島北町6-3 TEL.086-252-3221(代表)
TEL.086-252-5002 FAX.086-252-3929
〒700-0017 岡山市北区伊島北町7-5 TEL.086-214-5678

